

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第15回

善竹十郎氏(狂言師、重要無形文化財保持者) 23世紀を意識した狂言の芸道とは

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

22世紀学会が出会い

いまから10年ほど前に、東京の浅草で講演会が開かれた。それは、「22世紀学会」(当時、現在は23世紀学会と改称)の例会であり、隅田川の河畔のレストランでの夜

狂言の道が本道

善竹十郎氏は、1944年8月13日に、大阪に誕生した。先日、77歳をを迎えた。大感流狂言師の父・善竹圭五郎、祖父・善竹彌五郎をもつ。自身は1806年に生ま

大多喜町でのシーン(2016年)



講義するようになった。この科目は、同学園創立の第1期生から、祖父に

より開講されたが、十郎氏は第2期生から50年間にわたり担当されたという。1

善竹十郎氏は、本業の狂言を伝授されたことになる。十郎氏は、本業の狂言

茨木のり子の会(2020年)



50名の混声合唱と15、20名の日本音楽集団が係わる音楽狂言である。第2作は、『寿来爺』。『クリスマス・キャロル』の主人公、エベネザ・スクリューに掛けた演目であり、2015年12月の初演であった。その後2019年にはオーストリア、スイス、イギリスの3カ国で6公演を行った。ヴァイオリン、アコーディオン、コントラバ

も狂言の長い歴史の日常の喜怒哀楽の一幕と捉え、福太郎氏の羽織を着け、「響きと間」の所作(型)に従い、演じた。深い芸道と職業観、そして歴史を背負った生き方を体現した。結果、会場は圧倒的な情熱に満ちた。写真は、出演者が登場した挨拶の場面である。

1800年後の23世紀に向けて 能楽という古典芸能

実はその講演会の講師は筆者であったが、時代を超えた「偉大なエンジニア、イザムバード・キングダム・ブルネル」を紹介した。ブルネルは、父のマーク・ブルネルとともに、テムズ川の川底トンネルに取り組んだ。その苦労は、後に報

【註1】にあるように、祖父・彌五郎氏は人間国宝で、伯父・大藏弥右衛門(大感流24世宗家)である。十郎氏は、このように永い歴史を持つ狂言師の父・善竹圭五郎、祖父・善竹彌五郎をもつ。自身は1806年に生ま

は、明治維新までは武家政権が支えてくれたが、その後は支援者がなくなっている。700年の伝統を消すことなからも続くのである。【註1】茂山忠亮、立命館大学博士論文、『狂言師善竹彌五郎の芸と生』近代狂言におけるアドの大夫として』 https://risimej.repo.nii.ac.jp/factionpages/view_main_informative_action-repository/view_main_item_detail_item_id101488item_no18age_id1388lock_id21

22世紀学会は、正に未来への目線が由来である。いまから1700年ほど前である。時間の経過は生き様にある。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立

「23世紀学会」に替えたというので、こちらは「23世紀学会」に替えたという。その日までは、1800年となった。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

「音楽狂言とは」 狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立

「23世紀学会」に替えたというので、こちらは「23世紀学会」に替えたという。その日までは、1800年となった。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

「音楽狂言とは」 狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立

「23世紀学会」に替えたというので、こちらは「23世紀学会」に替えたという。その日までは、1800年となった。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

「音楽狂言とは」 狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立

「23世紀学会」に替えたというので、こちらは「23世紀学会」に替えたという。その日までは、1800年となった。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

「音楽狂言とは」 狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立

「23世紀学会」に替えたというので、こちらは「23世紀学会」に替えたという。その日までは、1800年となった。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

「音楽狂言とは」 狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立

「23世紀学会」に替えたというので、こちらは「23世紀学会」に替えたという。その日までは、1800年となった。

善竹家の指導は、口述によるもので、父からも指導を受けたが、長兄の伯父からの訓練がとりわけ厳しかったと、インタビューで聞いた。善竹十郎氏は、受けた新

「音楽狂言とは」 狂言の長い歴史を如何に未来に伝えるか。これは、現代を生きる我々も常に考えなければならぬ心根である。時代によって笑いのソースも、また笑いに對する感覚も異なるので、能や狂言も、古典芸能のほかに新作芸能への挑戦が必要になる。この話題を十郎氏に問いかけたら流石に実践されているとの答えだった。十郎氏は、狂言を立



インタビュー時の善竹十郎氏(2021年)

連載